

生息状況調査等について

1. 御嶽山のライチョウ生息状況調査（長野県・岐阜県）について

(1) 目的等

2014年9月27日の御嶽山の噴火の影響を調査することを目的に長野県と岐阜県が合同で調査を行った。入山規制のある火口から1kmを除く御嶽山の高山一帯を対象に調査を実施した。同様の調査方法で実施した過去の調査では、御嶽山のなわばり数は30～50と比較的安定していた。

(2) 調査結果

長野県側の南部に9なわばり、北部に6なわばりの計15なわばりが推定された。岐阜県側での推定数も15なわばりで、合わせて30なわばりという結果であった。

(3) まとめ

今回の調査結果より、噴火による植生への影響でなわばりができなくなったのは2～3程度で、今回の噴火はライチョウの個体群に大きな影響は与えていないことが確認された。

2. 南アルプスにおける個体の移動について

静岡ライチョウ研究会の朝倉氏の調査により確認された南アルプス南部の標識個体について、南アルプス北部で標識された個体であることが判明した（図3）。この調査結果により、個体が山岳沿いに長距離移動をしている実態が明らかになってきている。

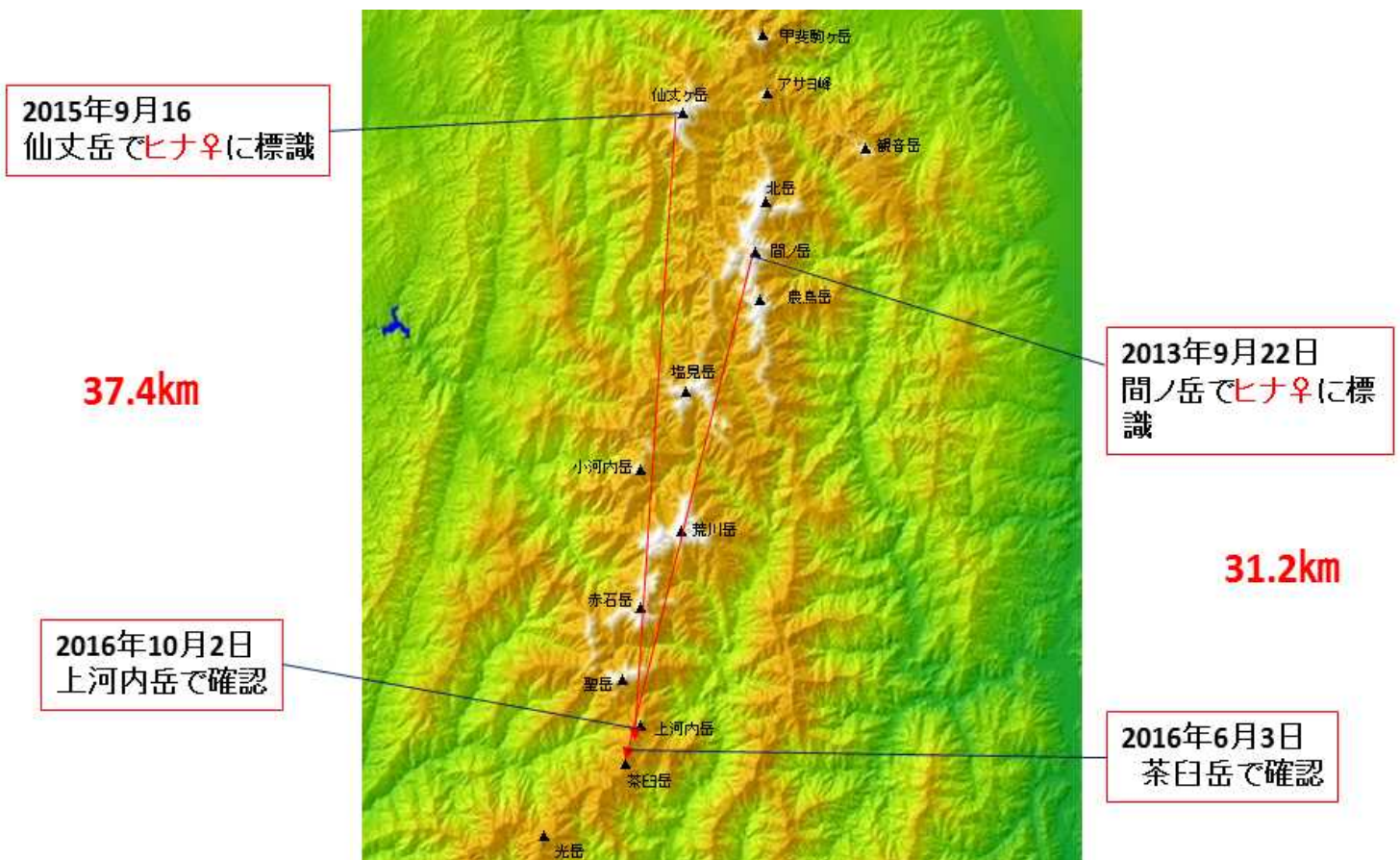


図3 南アルプス北部地域からの個体の移動

3. 平成 28 年度赤石岳・荒川岳の生息状況調査について

(1) 目的

南アルプスのライチョウ生息域の核心部となる赤石岳・荒川岳においては、近年、詳細な生息状況調査がされていないため、平成 26 年度実施した予備調査の結果を踏まえ、なわばり期を中心に調査を実施する。

なお、本調査は平成 27、28 年度と、調査時期直前の調査地に至る林道土砂崩れにより実施できておらず、平成 29 年度に延期とした。

(2) 調査概要

1) 調査時期・期間

- ・なわばりが形成されている（平成 29 年）6 月下旬に、1 週間程度の調査期間により実施
- ・場所によっては残雪があることが予想される

2) 調査区域

- ・千枚岳から百間平までの稜線上を中心に調査を実施（裏面参照）

3) 実施体制

- ・調査人員は、6 名程度でライチョウの調査技術及び冬山の登山技術を有する者により実施
- ・残雪に備え、ピッケル及びアイゼン等の冬山登山の装備で実施
- ・山小屋の営業開始前の時期であるため、不測の事態に対応できるよう十分な食料及び燃料を準備

4) 調査方法

- ・個体の直接確認や生活痕跡確認によるなわばり推定調査法の実施

5) その他

- ・残雪が多い急傾斜地などで滑落等の危険もあることから十分な注意が必要
- ・その他、荒天など気象条件を含めて安全確保に努める



南アルプス南部の山域（荒川岳・赤石岳・聖岳）